

学術 初オンデマンド開催

青木 隆宜(26期生)

今年度の同窓会主催臨床スキルアップセミナーは、新型コロナウイルス感染症の収束の目途が見えない状況を鑑み、完全オンデマンド形式にて開催することになりました。その第二回が6月25日に「ラバーダム防湿の基礎と臨床」をテーマに、ライブ配信にて行われました。

はじめに成育小児歯科学分野講師 馬場篤子先生より「ラバーダム防湿の基本と工夫」と題し、ラバーダムの装着手技や治療を行う利点についてご紹介いただきました。続いて河端歯科院長 河端憲彦先生(27期)からは「ダイレクトボンディングの予後に挑む」を、うちだ歯科医院院長 内田雄章先生(26期)からは「エンドの基本を確実に」をテーマにそれぞれラバーダムを用いた具体的な臨床症例についてご講演いただきました。

コロナ禍においても学びの場を継続することを模索し、今年度はWEBでの開催形式とさせていただきます。配信後10日間視聴が可能となっておりますので、10月に行われる第三回も是非多くの皆様にご参加いただければと思います。



画面越しながらも熱いセッションが行われた

同窓生からの手紙

同窓会 福祉厚生 活動「災害対策」

福岡歯科大学同窓会常務理事 俣野 正仁(5期生)

現在、この原稿を書いているときに九州・中国地方は未曾有の豪雨に遭っています。気温の上昇も含めて何処で何が起こるか予想がつかない異常気象だらけの日々です。各自の備えはもちろんですが、発生時の情報の収集と発信は必要だと思います。同窓会としてできることには限界もありますが、本部同窓会は府県同窓会と連携して、会員の先生方の少しでもお役に立ちたいと考えております。少し時間がかかりましたが「災害時緊急連絡網」をライングループで作成し運用を開始しています。府県ごとに2名の方々にご参加いただいております。会員数にもよりますが府県同窓会の多くは地区責任者の方々とも連絡を密に取っていただきますようお願いいたします。都道府県歯科医師会も各種の災害対策を実施しておりますので情報共有にも努めます。連絡網は他大学未整備で吉永会長の就任時の最優先課題でした。会長の会員への思いを大切に他事業に関しても二所懸命に取り組み所存です。

医療は日進月歩

高山 雅仁(34期生)

私は福岡歯科大学を2012年に卒業後、同大病院にて臨床研修歯科医師として1年研修を行いました。そして、そのまま咬合修復学講座口腔インプラント分野に6年在籍し、福岡市内の一般歯科にて勤務後、福岡市城南区にて「別府たかやま歯科医院」を2020年4月に開院いたしました。この時期は世界的に新型コロナウイルスが流行していましたが、多くの方々の支えによって無事にスタートすることができました。

開院当初は歯科受診を控えている方々も多くみられましたが、近年は健康な身体作りのためにも口腔内環境を清潔に保つ必要性が唱えられており、受診を控えていらつした方々も歯科に来てくださるようになりました。歯科口腔内への興味が高まっていることは大変喜ばしいことで、少しでも地域住民の皆様により良い効果をもたらすことができるように当院スタッフ一同、日進月歩の医療を学びながら、皆様の健康のお手伝いをしていきたいと思っております。

クリニックからこんにちは!



卒業生 NOW

まずは好きなことを伸ばす

三原 朋之(39期生)

私は大学卒業後、岡山大学の卒後臨床研修を経て東京医科歯科大学の旧摂食機能保存学分野(いわゆるクラウンブリッジ)に大学院生として入学しました。今年度の9月からは咬合機能健康科学分野として再編され、私は現在第4学年となります。

学生の頃から補綴に大変興味がありました。そのため補綴の診療ができ、かつ関連情報取得しやすい大病院の補綴講座に入局しました。大学院では切磋琢磨できる同期に恵まれ、自分の困っている症例を相談し合ったり、セミナーや今熱心に取り組んでいる分野を共有したりしています。また所属講座でのクラウンブリッジの学びを幹として、セミナー、書籍やスタディグループで得た可撤性義歯、インプラント、歯周治療等の情報を肉付けして、治療の質を向上させ患者さんに還元できるようにしています。

旧義歯では食べられなかったのに新義歯でお肉や野菜が食べられるようになったと患者さんからおっしゃってもらったり、すごくきれいになったと喜んでもらえたりした時は感動の極みです。

学生の皆様には好きな分野や得意な分野を見つけて、それをさらに伸ばすように、いろいろなことに挑戦し、充実した歯科医師人生を歩んでいただけたら幸いです。私もまだまだ至らぬ所ばかりですから、これからも精進する所存です。

